



序 文

阿波学会会長 石 田 啓 祐

阿南市におかれましては、平成26年6月には、室戸阿南海岸国定公園指定50周年を迎えましたことをお慶び申し上げます。また半世紀にわたる自然環境の保護と地域振興活動に敬意を表します。阿波学会も平成26年12月に創立60周年を迎え、双方意義深い節目の年度に総合学術調査報告書が発刊できますことを、会員一同うれしく思っております。

阿波学会は徳島県内の学術調査を中心に「自然環境の把握」「歴史文化の紹介」「住民の健康調査」を通じて、地域を支援する活動に取り組んでいる団体です。県内調査が58年かけて一巡し、二巡目を新たに阿南市からスタートすることになりました。

近年では平成の大合併もあり、調査地域が以前より広くなりましたことから、2巡目からは、各市町村を2年かけて取り組むことにいたしました。調査を受け入れてくださいました阿南市のみなさま、準備にあたられた阿南市文化振興課・県立図書館の関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成25年度の調査は、8月2日の結団式から10日間を中心に、また平成26年度の調査は、4月27日の中間発表会から10日間を中心に、16調査班100名前後の会員が参加して実施いたしました。

阿南市は山地から島嶼まで、地形的な変化に富み、多様な自然環境に恵まれた地域であります。近年は微小陸貝の新種発見なども紹介されておりますように、山地に点在する大理石の分布ごとに「カタツムリのパラダイス」ともいえる固有のビオトープが成立し維持されていることが知られて参りました。背景には「3億年のプレート運動がもたらした珊瑚礁の置き土産」としての地球の歴史が深く関与しております。特異な地質と急峻な地形は、古くは「丹生谷」に名を留める朱の産地として、また「西の高野山」太龍寺を中心とした修験場として、そして近世以降には貴重な石材資源の産地として、大理石が寺社仏閣の礎石や議事堂をはじめとする国の建造物に使用されるに至った歴史の数々が岩肌に刻まれております。

この報告書では、2年間にわたる総合学術調査の成果を25編の論文にまとめて皆様に報告いたします。阿南市の地勢を特徴づける、自然環境と生態系、歴史と文化、生活と産業など、将来に向けた地域資源の保護と活用、ならびに皆様の健康増進のお役に立つことができますよう祈念しております。